

本紙が選んだ

# 10業界10大ニュース

- 大塚商会、PBクラウド事業で提携
- 富士ゼロックス、11年連続省エネ大賞
- リコー、国内の販売体制再編
- 京セラテック、OAとPOS事業統合
- JBMI A、創立50周年式典開く
- デュプロ精工、小型製紙装置を開発
- キヤノン、「PIXUS」新製品投入
- 京セラミタ、独の販社を子会社化
- 「bizhub」がグッドデザイン金賞
- シャープ、電子書籍事業参入へ

## デュプロ精工 小型製紙装置を開発 各展示会で大きな反響

デュプロ精工（和歌山県紀の川市）は、使用済みコピー用紙を溶解し、インクと繊維を分離させ、純白の

オフスEXP O（7月7日〜9日、東京ビッグサイト）をはじめ、早稲田テックス大阪で開催された「NEXTPO/KANS



「RECO TIO PM-1000」は新しいタイプの古紙リサイクル装置で、オフィス内にも設置可能なため、環境保全だけでなく燃費保持にも貢献する。

「RECO TIO PM-1000」は新しいタイプの古紙リサイクル装置で、オフィス内にも設置可能なため、環境保全だけでなく燃費保持にも貢献する。

一般にシロツタにかいた用紙のほとんどは焼却処理されるのが現状。「RECO TIO」は内蔵したシロツタで用紙を細断し、水を加えてかき混ぜ、繊維を分離させ、トナー成分を除去し、印字成分は泡とともに排出。そのあと紙を抄（す）く作業を行い、乾燥、定型サイズにカットし、再生紙を排出。

このように製紙工場と同等の工程を1台で処理する（原料回収・投入→溶解→精選→脱墨→抄紙→断裁）。商品名の「RECO TIO」は、Recycle・Ecology・Continueの3つの言葉を組み合わせた独自の造語で、「リサイクルやエコを継続的に起こすことを使命」として名付けた。